

# 視点 論点

## 私たちの暮らしを破壊する TPPという「ドリル」

山下惣一（農業・作家）

やました・そういち 1936年、佐賀県唐津市生まれ。農作業のかたわら、暮らしに根ざした小説や農業問題をテーマにしたルポを数多く発表し、生産者の視点から鋭い提言を続ける。『海鳴り』『減反神社』『農の時代がやってきた』『ザマミロ！ 農は永遠なりだ』『百姓が時代を創る』『食べものはみんな生きていた』など著書多数。「アジア農民交流センター」、「TPPに反対する人々の運動」の共同代表。

### ■ 10年かけてアメリカ並みの「格差社会」に

TPPは「トランス・パシフィック・パートナーシップ」の略で太平洋をぐるっと囲む12の国で交渉中の自由貿易協定であることはご存知でしょう。もともとは2006年に発効したシンガポール・ブルネイ・ニュージーランド・チリ（4カ国の人口合計2600万人）の小さなFTA（自由貿易協定）だったので日本とは関係がなく誰も知りませんでした。そこへアメリカが乗り込み、主導権を握り、2010年10月、当時の菅首相の唐突な「第三の開国」宣言から私たちの問題となり、紆余曲折をへて、2013年3月に安倍首相が正式に参加を表明しました。

最初の交渉からすでに4年たっても大筋合意にすら至らない。それほど異常な協定なのです。ひと言でいえば、ほぼ10年をかけて参加国は現在のアメリカと同じルールになるということです。

TPPは農業の問題で「わしら関係あらへん」と今でも多くの人が考えているようです。

たしかに最大の問題は農業です。政府の試算によるとTPP参加でGDP（国内総生産）は0.6%、3兆2千億円増加する一方で農林水産業で3兆円の減少と発



私たちは、とりかえしのつかないものを失いかけている

表されています。現在国内の農業の産出額は約9兆円で農家所得は約3兆円ですから、これは農家所得がゼロになるということです。

そのため農協が先頭に立って反対運動を展開してきましたが、ご存知の通り「農協解体」の圧力をかけられて沈黙し、「医療崩壊」で反対してきた日本医師会も声をひそめ、反対派の論客たちはマスコミから閉め出されてしまい、まるでこの国には最初からTPP反対などなかったかのように静かです。

### ■ すでに進められているTPP対応の国内対策

一方、政府は着々とTPP対応の国内対策を進めているように見えます。いくつか実例をあげてみましょう。たとえば「牛肉」です。「BSE」という牛の病気を覚えていますか。「牛海綿状脳症」と訳され、牛の脳がスカスカになって腰が立たなくなる恐ろしい伝染病です。2003年にアメリカで発生したため米国からの牛肉の輸入が禁止になり、仙台名物の「牛タン」が消えた。もう忘れませんか。その後再開したところ、病原体の可能性の高い「骨つき牛肉」が混入されていたため再び問題となり、年齢の若い牛はBSEにかかりにくい生後20カ月以下に限定されました。国民の食の安全を守るための国家主権ですよ。この措置によって輸入牛肉の50%を占めていた米国産牛肉は30%まで減少しました。いま以前の30カ月齢に戻っています。

日本国内での「ガン保険」はアメリカの2つの会社で85%の寡占状態になっているそうです。日本政府は全国の2万の郵便局窓口でアフラックの「ガン保険」を売り出すことを決定したと報じられています。

大阪府は「混合診療特区」になっていますね。日本医師会がTPPに反対する最大の理由が「混合診療が導入されると日本の優れた医療制度が崩壊する」というものでした。「混合診療」とは、健康保険が使えない医療が出現するというこ



TPP推進への抗議行動より（写真提供：農民連）

です。日本の医療は国民皆保険制度ですが、アメリカにはこれはありません。先進国では珍しいのです。先端医療など公的保険が使えない分野が増えて民間の保険にも加入することになります。アメリカの自己破産の60%が医療破産だと伝えられています。

今後予想されるのは保育園や公立学校からの行政の撤退、民営化でしょう。そして「バウチャー制度」。児童にクーポン券を給付して学校を選択制にするぐらいまでいくかもしれません。農業と漁業は「農地法」と「漁業権」を廃止しての自由参入です。かくしてアメリカ並みの「格差社会」になるわけです。

安倍首相は「既得権益を砕くドリルになる」と勇ましいことですが、そのドリルで破壊されるのは私たち国民の暮らしなのです。

\* 5面で山下さんの近著『日本人は「食なき国」を望むのか』を紹介しています。ご覧ください。

### 日本人は「食なき国」を望むのか

山下惣一【著】  
2014年7月 単行本 240ページ 1512円（本体1400円）  
\* 430号で注文できます。注文番号：63012  
評者：立野文慎（大阪産直）

### 読書クラブ—わたしのオススメ

### 「日本人は『食なき国』を望むのか」

7面もお読みください

同じことを漠然と考えていました。でも私の中で答えが出なくてモヤモヤしていました。

この本は山下惣一さんの小農擁護論です。月刊誌『地上』に連載中の「農のダンディズム考」をまとめたものです。44の短編は、私たちにぐいぐい語りかけてきます。「どう思う？」と。

サブタイトルの「誤解だらけの農業問題」も農

業問題の何を私たちが誤解しているのか、現場を知る惣一さんが日常語で書いているので、面白くて分かりやすかったです。

「豊かさや幸せは同じではない」同感です。

惣一さんは言います。「農業が儲からないのは、儲けを目的にしているからで、農業が担っているのは命であり、暮らしだ」と。確かにお金は大

事です。でもお金だけに頼らない生き方、また社会変動に影響されにくい生き方としての農業はありだと思います。本当の豊かさって、何だろう？ 幸せって何だろう？ 改めて思い出しました。

惣一さんの話には共感するところが多いです。でも何でもかんでも同じようにはできません。いずれは自然に囲まれて、時がゆっくり流れる中で小農をしたい。でも今の私にできることは配達の時会員さんと話をして問題意識を共有することだと思いました。よつぱつだからこそできるこの配達は、毎日時間に追われて大変だけど、楽しいので私は好きです。

この本はこれからの農業を考えるのに、面白くて分かりやすい良書です。オススメです。ぜひご一読ください。それでは、今日はこのへんで、ごきげんよう。

「よつぱつうしん」より転載させて頂きました。